　　　　　　　　　　ネパールの素直な先生や子どもたち

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　山下　真里奈

　HPで「おなご先生」という名前を目にした時、「二十四の瞳」を思い浮かべた。そして、どのような活動をされているのか、どのような支援団体なのかということに興味を抱いた。すぐに岩谷さんに連絡し、実際にお会いして話を聞かせて頂くことになった。今回パトレに一緒に訪問させて頂いたこと、授業をさせて頂いたことなどJNFEAの方々に感謝でいっぱいである。

　現地パトレの学校へ着くまでには、カトマンズ空港から車や徒歩などで１０時間ほど要した。雨季というとこもあり、道はぬかるんでおり、車で山の上の学校まで行くのは、厳しかった。一緒に行った人たち皆で協力し、上まで登った。クリシュナさんの家へ着いた時、「やっと着いた。」とみんなで安堵の表情を浮かべたことを記憶している。

　次の日から授業を三回行った。初日は、図工で現地の先生たちに泡の造形遊びと水墨画の指導方法を伝授した。まず、日本で準備した石鹸、絵の具、網、筆を使用して絵を描いた。石鹸で泡をたて、各自が表現した作品を描き、先生方も楽しそうに取り組んでいた。次に水墨画では、墨汁と筆を使用し日本の児童の作品や雪舟の描いた模範作品などを見せて、先生たちに指導した。先生たちが描くものはネパールの山や花が多かったように感じる。感想からは、「現地にある材料で簡単にできそうだ。」「子どもの興味をひくので、楽しんで一緒にできそうだ。」「自分の生徒に教えてみたい」といった内容があがった。

　2日目は、同じ内容を子どもたちに指導した。児童は、新しいことや初めて見ることに目を輝かせていた。進んで必要なものを準備したり、絵を描いたりしていた。やはり、描くものは花や山などが多く、自由に描いてみようと助言しても、思うように進まなかった。次に図工の授業をする時には、まずは、模倣や写生をし、みんなで一つのテーマを練習する必要がありそうだ。見たもの想像したことなどを自由に描けるようになれば、より発想力もつくであろう。

　３日目は、音楽で手遊びやレッサンフィリリを歌唱したり、リズム指導を行ったりした。ネパールの先生たちは、歌うことが大好き。手遊びのペアも、男女問わず、年齢問わず組み合わせ、いろいろな方と音楽を楽しむ時間になった。

　今回の指導を通して、「すべての材料は、現地のもので代用できる。そして、先生たちも児童もすごく素直でもっといろいろなことを教えたい。伝えたい。」と感じた。図工や体育などの情操教育の必要性を改めて感じ、繰り返し指導を伝授できれば、よりよい教育活動になると感じた。今後も、道具や教材の有用性を考え、現地での指導が続くものを伝授し続けたい。